

「進路を考える会」議事録／⑤音楽・舞台芸術系

7階教室

Aさん：東京藝術大学 音楽学部 楽理科

Bさん：立教大学 現代心理学部 映像身体学科

Cさん：東京藝術大学 音楽学部 音楽環境創造科

1. 進路を決定した時期と、その大学を選んだ理由

Aさん：進路のことを入学時から考えていた。

音楽の先生を目指すつもりだったが、疑問が生まれ、自分の音楽の先生に相談して、教える、音楽で食べていくというより、音楽を学びたいと考え決めた。

Bさん：3年次前期

高校ではシフォンに所属。ダンスの技術を学ぶのか、考え方・プロセスの学問を学ぶのか進学
の意義を固めるのに時間がかかった。

技術だけを学ぶなら日本女子体育大や桜美林などがあつた。

技術の競争に限界もあり、技術を学ぶだけでは違うと考え、学問を学ぶ学部を見つけ志望校に
決めた。

Cさん：3年次にメキシコへ留学。翌年3月頃に進路を決めた（帰国はその夏）

部活（シフォン）の先輩が本校出身で、1年次から憧れ希望していた。

2. 入試方式

Aさん：一般公募、一次センター3科（英語、国語、政経）、

一次実技トロンボーン（ピアノは勝てないと思い）小論文、作曲、ソルフェージュ、口頭試問
（面接）

併願校、明治学院・芸術学科センター利用落ちた。

青山学院大学・総合文化政策学科、一般試験、準備不足（社会）落ちた。

Bさん：指定校推薦 志望理由書のみ

先輩の同校への指定校推薦の例を見て知り、1年次から意識して学校の成績は上位を目指した。

併願校なし

Cさん：入試1000点中、センター500点、音楽筆記、小論文800字、PR面接5分（自分は踊った）
併願校は1つのみだが不合格。志望校は1つに絞っていたため、併願校の受験対策は調査も準備も不十分。反省点

3. 本格的に受験勉強を始めた時期

Aさん：高3年生のスポ大が終わってから。トロンボーンは、中1から始め、受験を意識して練習をし始めたのは、高1の秋から。（人に聞かせることを意識して練習）和声、高2になってから。小論文は早めの対策。

Bさん：気持ちの面では3年生4月から。実際は部活の自主公演とスポ大の終了した後の6月から。指定校推薦の落選を踏まえ、自己推薦入試も準備した。自己推薦入試に必要な推薦分の作成は難しかった。在学時取り上げていたテーマの内容を利用できたのは良かった。

Cさん：帰国した7月に卒業式をしてもらい、その際に担任と話して焦りを感じた。8月頃からセンター対策開始。

4. 勉強方法

Aさん：学校8時～1時間楽器の練習。放課後、個人塾に行って授業以外8時～9時まで自習。神奈総の先生にもサポートしてもらっていた。空き時間は楽器の練習。洗足音大のサイトで練習していた。1月からは、自宅で頑張った。休みの日、楽器、歌の練習。塾の自習室で勉強。

Bさん：塾は2日/週。
塾の自習室や図書館を利用し家にいないようにした。
学校の補習に参加し、友人との情報交換は刺激になってよかった。

Cさん：予備校には行かず。通信教育（Z会）のセンター&小論文対策を利用。卒業しており時間はあった。図書館に籠り試験勉強。

5. おすすめの参考書

Aさん：個人塾の先生のおススメの本を、本屋で見ても自分に合ったものを購入。
『やっておきたい英語長文1000』とても良い。現代文と格闘する。

Bさん：学校の教材（古文テープ、日本史A表など）
姉の使っていたもの（具体名なし）を利用

Cさん：センター過去問題。早めに始め実力を把握。
学校の教科書（国・英・倫理）を活用。
面接対策として教授執筆の本を読む。
気分転換に美術系の読書→小論文のネタ集めにもなる。

6. 部活、委員会、行事との両立

Aさん：吹奏楽部、ジャズ楽、ダンス、文化祭実行委員、スポ大（3年）でダンス教える。
やりたいことはしっかりやって、その後のメリハリをつけて、しっかり勉強すれば良いと思う。
自分の性分を見極めることが大事。

Bさん：部活引退の時期の判断は重要。自分は引退時期を引っ張ってしまい、勉強も部活も中途半端になった。
スポ大など楽しい行事は自分で強い気持ちを持ってスケジュール管理し、楽しんだ方がいい。

Cさん：留学直前まで部活をやっていた。大学の面接で「作品を作ったことがあるか」と聞かれたが自信を持って「ある」と答えられたので、部活をやりたいと思ったら、その経験は生きると思う。

7. 受験の感想

Aさん：芸術系をやる人は、勉強だけでなく、いろいろ経験した方が良い。芸大の試験は長いので、ストレスが溜まる。根性が必要。
青学の総合文化政策学科の指定校を勧められたが、芸大への思いが勝った。
一週間悩む、いったん立ち止まって考えた事、良かった。

Bさん：自分は部活に力を入れテスト前の勉強だけだったので勉強の習慣を身につけるのに苦労した。
1-2年次から机に座る習慣をつけたほうが良い。
指定校推薦は行きたい学部ならよいが、枠が取れたから狙う（という大学の友人を見て）のは違うと思う。

Cさん：ひとりで勉強をやることが多く、もう少し人とかかわる時間が欲しかった。
倫理を勉強していたこともあり、人との関わり合いは大切、切磋琢磨したらいいと思う。

8. 大学の授業内容、学校生活全般の感想、入学前と印象の違い

Aさん：（音楽学）世界中の音楽を学び、それをどう活用するかを学ぶ、研究する。
（音楽社会学）音楽をどう社会に役立たせるかを考える。
実技ピアノのテストもある。

頭でっかちになりたくないなので、研究を兼ねて、実技に取り組んでいる。
自分でワークショップやコンサートなど。とても面白いところ。

Bさん：英語3単位、第二外国語2単位と語学中心。舞踊が1単位/週。

自ら動かないと学校生活が無意味になる。同じ学部学科の仲間とは考え方が似ており視野が狭くなる恐れあり、視野を広げるような活動・派生が必要と先輩にも言われている。
神奈総は多様化していた。

Cさん：1年次後半に3つのプロジェクト（①創作②音響③アートプロデュース）に分かれる。

ダンスがやりたくて入学したが音楽の授業が今は多い。

神奈総と似て、自分のやりたい事が決まっている人が多く、刺激があり楽しい。

9. 現役生に伝えたいこと

Aさん：自分に何ができるか、何を伸ばしたいか、何を目的にするかで、受験のプロセスを考えると有意義になると思う。

Bさん：舞台芸術系は将来が不安と言われるし自分も感じたが、やりたい事をやるほうがいいと思う。
神奈総生の仲間を大切に。

Cさん：就職の事は不安があったが、入学後に輪も広がる。才能のあるなしより、やりたいか・やりたくないかで決めたらいい。やりたいという気持ちが大事。友達との時間は大切に。

【 質疑応答 】

● ストレス発散は？

Aさん：音楽を聴いたり、友達と話したりしていた。音楽を聴きながら散歩。

Bさん：友人や親と話すこと。外で頑張り、家では勉強以外のことを話す。家は楽しい会話ができる環境だった。

Cさん：短期集中の勉強法（5-6時間/1日）、音楽を聴きながら図書館まで1時間歩いたり、夜はテレビを見たりしていた。

● 親に対して思うこと

Aさん：親と専門が違うため干渉はしてこなかった。小論文対策は一緒に考えてくれた。

最後のほうで「大丈夫なのか？」と聞いてきたが、信じて欲しかった。

Bさん：親からは干渉してこなかったが、ストレスがたまると親と勉強以外の会話をした。家の居心地はよかった。

Cさん：親の気持ちもわかるが、テレビを見ている時の親の視線が嫌だった。あまりチクチク言って欲しくない。

● 高校1年からやり直すとしたら／後悔があるとしたら

Aさん：自分が主体となって仲間と一緒に何かをやりたい。ミュージカルやりたかった。高校は、色々な分野の人がいるので、自分中心になって何かやってみることが大事。

Bさん：進路を早くから深く考えておけばよかった。

学校生活は妥協なくやりたい事をすべてやりきったので後悔はない。

Cさん：周りと比べて自信をなくす（いわゆる神奈総病）こともあった。日頃から定期的に勉強をする習慣を身につけておけばよかった。

広い世界を見てみたく、ロータリークラブの募集で留学ができ、毎日キラキラした生活を送れたのでよかった。